

平成22年度

# 総合的な学習の時間 学習指導案

## 【研究テーマ】

「自分で追究した思いや願いを、わかりやすく伝えるために、表現を工夫できる子どもを育てるための学習展開はどうあったらよいか」  
～視聴覚機器の効果的な活用を通して～



期 日： 平成22年10月29日（金）

単 元 名： 「発見！村上の歴史」

授業学級： 6年東組 31名（男子18名、女子13名）

授業会場： 児童会室・6東教室・集会室・学習室・教材室

指 導 者： 長野県教育委員会 北信教育事務所指導主事  
相原 修 先生

授 業 者： 市川 忠志 教諭

坂城町立村上小学校 総合的な学習の時間 研究部会

## 【 目 次 】

I	研究テーマ	1
II	テーマ設定の理由	1
III	研究の概要	2～3
IV	研究の仮説	3～
V	本時の学習指導案	4～
	1 単元名	
	2 単元設定の理由	
	3 単元目標	
	4 単元の展開	
	5 本時案	7～
	（1）主眼	
	（2）本時の位置	
	（3）指導上の留意点	
	（4）展開	
	（5）実証の観点	
	6 教材研究	8～
	（1）本時に関わる視聴覚教材・機器とその活用	
	（2）素材の教材化 など	
VI	資料	9～

## I 研究テーマ 全校研究テーマ

「分かった、できた、楽しい」と子どもと教師が実感する授業の創造  
～表現する力を高める指導を重点にして～

### 総合的な学習の時間研究テーマ

「自分で追究した思いや願いを、わかりやすく伝えるために、表現  
を工夫できる子どもを育てるための学習展開はどうあったらよいか」  
～視聴覚機器の効果的な活用を通して～

## II テーマ設定の理由

村上小学校は、坂城町の西側に位置し、全校9クラス児童数184名の比較的規模の小さい学校である。豊かな自然に恵まれ、近くには蛍が飛び交う清流も流れている。その豊かな自然の中で、子どもたちは明るく素直で、言われたことに対しては、まじめに取り組み、頑張り抜く子どもたちが多い。しかし、人前で発表したり、地域の人とあいさつを交わすときなどは、声が小さくなってしまいうちも多い。また、自分の思いや願いを相手に伝えることを恥ずかしがったり、ためらったりする子も多い。

そのため本校では、『分かった、できた、楽しい』と子どもと教師が実感する授業の創造～表現する力を高める指導を重点にして～という全校研究テーマを設定し、子どもと教師が表現力の高まりを実感できるようにしたいと考えた。

さらにそれを受け、「総合的な学習の時間」研究グループでは、表現力を「自分の追究した思いや願いをはっきりさせ、それを相手にわかりやすく伝える力」ととらえ、「自分で追究した思いや願いを、わかりやすく伝えるために、表現を工夫できる子どもを育てるための学習展開はどうあったらよいか」～視聴覚機器の効果的な活用を通して～というテーマを設定した。

昨年度までは、月影寮（障害者福祉施設）や保育園との交流を活動の中心に据え、研究を進めてきた。その中で見えてきたことが次の2点である。

- ・相手意識をしっかり持たせた学習展開を仕組むことによって表現力が高まっていく。
- ・ビデオ視聴覚機器を使い、自分の姿を見返したり、他のグループの姿を見たりすることによって表現力が高まっていく。

それを受け、本年度は「相手意識」と「視聴覚機器の有効な利用」を大切な研究のポイントとして、6年の「総合的な学習の時間」～『知ってもらおう、わたしたちの学校』～村小ホームページ作りへの取り組み～で研究を深めてきた。その中で、パソコンを使うことで子どもたちが興味関心を持ち、活動に取り組めること。専門家の意見を聞いたり、友だちの良い作品を見あうことにより相手が見やすくわかりやすい表現の工夫に役立つこと。また、視聴覚機器を活用することで、自分たちの作品を何回も見直したり、友だち、専門家などに見てもらい修正することでよりよいホームページが作れることが分かった。しかしながら、自分の思いや願いを強く持つことが、相手に何を伝えるかをはっきりさせるために必要なこと。ホームページ作りの中では、発信する相手が不特定多数であるので、相手をはっきりせず、相手意識を持つのがむずかしいこと。表現の工夫が、パソコン上の技術などに偏ってしまうことなどの課題が見えてきた。

そこで、6年の「総合的な学習の時間」～「発見！村上の歴史」では、現地へ足を運んで体験したり、現地での専門家の話を聞く活動を取り入れ、自分の思いや願いを強く持たせ、伝えることをはっきりさせることを考えた。また、参観日に保護者や地域の方々をまねき、そこで調べたことを発表する場を設け、相手意識をはっきりさせようと考えた。さらに、発表のための練習の中で、ビデオカメラを使い自分たちの姿を見返す機会を作ることにより、相手にわかりやすい表現になっているかを見返せると考えた。また、ビデオの活用は、友だちの良い作品を見たり、友だちからアドバイスをもらったりする協同的な学習をするにも有効であると考えた。

このような活動を通し、自分で追究した思いや願いを、わかりやすく伝えるために、表現を工夫ができるようになると考えた。

また、長野県視覚・放送教育研究大会大会 更埴・長野市南部大会の大会主題は「広い視野を持ち、新しい文化を築く心豊かな人間の育成を目指して」～教育メディアの効果的な活用を通して～である。この「広い視野」や「新しい文化を築く」ことも参観日の発表やさらに発展したホームページ作りの中で、より多くの人に見てもらうことにより相手にわかりやすい表現を考えることで達成されると考えた。また、「心豊かな人間の育成」も村上の歴史のすごいところを自分なりに見つけ出したり、再発見することを通し、自分た

ちの郷土に誇りを持ったり、自分が村上の地で生まれ育ったことに自信を持てることにより達成されると考えた。さらに視聴覚機器の利用が子どもの主体的な活動を促すと考えた。以上の理由から上記テーマを設定した。

### Ⅲ 研究の概要

#### 1 仮説を導き出した事例

##### (1) 事例①

地域の歴史的遺産を実際に見学することを通して追究意欲を高め、自分の発見したことをみんなの前で発表することのできたR児

日本の歴史を学習していく中で、「すぐ近くに古墳があるよ。」と話してくれる友だちがいた。早速見学に行ったが、その古墳を子どもたちは興味深く見ていた。その時R児は、「こんなにすぐ近くに古墳があることにびっくりした。もしかしたら、他にもあるのかなあ。」と感想を書いていた。多くの子が同じような感想を書いていたので、他にも昔から残る古い物を探してみる事となった。するとR児は、すぐに家の人に聞き、たくさんの古い物を見つけてきた。翌日、自分の調べてきたことを「こんなにあったよ。」と得意気な様子でみんなに話していた。

◎実際に現地に行き本物に触れたり説明を受けたりすることが、子どもの追究意欲を高める。  
◎自分で調べ発見することが、発表への意欲につながる。

##### (2) 事例②

相手意識が明確でなかったために課題意識が薄れ、分かりやすい表現ができなかったS児

分かりやすい表現方法を学ばせるため、ホームページで学校紹介をする活動を行ってみた。ページづくりの活動を行う前に「分かりやすい表現」を意識づけたつもりであったが、S児は、スタンプの図をたくさん貼り付けたり、写真の説明が言葉足らずだったり、「分かりやすい表現」への意識が薄らいでしまっていた。S児に、周りの子のページを見せたり、アドバイスをしたりしてみたが、「でも、これ楽しくていいと思うけど、だめなの？」と、S児の意識を変えることは難しかった。

◎相手意識や目的意識が明確でないと、課題への意識が希薄になる。

##### (3) 事例③

少人数グループで活動することを通して、進んで自分の考えを話したり、活動したりすることのできたY児

Y児は、普段は普通に会話のできる子だが、授業中にはとても控えめで発言など見られない子であった。しかし、少人数グループに分かれ、保育園児のための学校紹介ビデオを作る際には様子が違っていた。児童会室を貸し切り、中では「登場はもっと元気にやりたいんだけど。」「もっとオーバーに動いた方がよくないかなあ。」と、自分の考えを進んで伝えながら活動に取り組むY児の姿が見られた。そして、友だちと意見交換しながら、自分たちの納得のいく作品を作り上げていた。

◎少人数の場を設定することで気兼ねなく意見交換することができ、表現の工夫も広がりやすい。

##### (4) 事例④

専門家の話を聞くことで、分かりやすく伝える表現の良さに気づいたN児

学校紹介のホームページを作る際、子どもたちはパソコンの操作が楽しいらしく、なかなか「分かりやすさ」への意識が高まらずにいた。そこで、町の広報担当の方に講師として来ていただき、分かりやすいページ作りのコツを教えていただいた。講師の方は自分がページを作る上で大切にしていることを具体例を示しながら丁寧に話してくださったが、子どもたちは、その話をメモを取りながら熱心に聞いていた。話のあともN児は、「ここはどうしたらいいですか？」と講師の方への質問が途絶えることがなかった。

◎その道に携わる方の話を聞いたり、実際によい例を見たりすることが、良さを納得し実践することにつながる。

(5) 事例⑤

ビデオを使って自分の姿を見返すことで、自分の課題をつかみ、表現の工夫ができるようになったK児

保育園児に学校紹介のビデオを作る練習をしている際、K児は、友だちによく早口を指摘されていた。周りの子が「もっとゆっくりしゃべった方がいいよ。」と声をかけても、「さっきよりゆっくりしゃべったつもりだけど。」と、なかなか直ることがなかった。一通り練習も終え、実際に撮影をすることとなった。そして、自分たちの姿を見たときに、K児の口から「ちょっと言い方が早いかも。」という言葉が聞こえてきた。その後の練習の中で、それまでよりさらにゆっくりと話そうとするK児の姿が見られた。

◎自分の姿を見返すことで、自分の良さや課題に気づき、新たに表現を工夫しようとする意欲につながる。

(6) 事例⑥

自分の住む地域にたくさんの歴史的遺産があることに気づき、地域を誇らしく感じることでできたT児

地域の歴史探検を行い、自分の住む地域にたくさんの歴史遺産があることに気づいたY児。一通り地域巡りを終え、感想を書かせたところ、「村上に住んでいながら知らないことがたくさんあった。自分の住んでいるところにあんなにたくさんの古いものがあるなんて、ちょっとほこりに思う。もっといろいろな発見をしたい。」と書いていた。T児は、その後の「地域の歴史上の人物」の学習でも、積極的に調べ学習を行っていた。

◎普段過ごしている地域の中に新たな価値を見出すことで、地域への愛着や誇りが育まれる。

IV 研究の仮説

《このような子どもたちに》

- ◎決められたことや活動の目的・内容がはっきりしていることはできる。
- 自ら課題を見つけたり、追究の見通しを見いだしたりする力が育ってきている。
- 人前で大きい声で話す気持ちは育ってきている。
- 自分の思いや願いを相手に伝えることを恥ずかしがったり、ためらったりする子
- ホームページ上ではわかりやすい表現の工夫はできるようになってきたが、人前での発表では、わかりやすく表現を工夫する意識が育ってきていない。
- 学校の良さには目が向いてきたが、自然豊かで歴史のある村上地区良さに気づいていない。

《このような手立てをしたら》

- ①自分の思いや願いを強く持たせるために、村上地区の歴史的な建造物や歴史的な場所に行き、そこで専門家から直接説明を聞く体験する機会を作る。
- ②相手意識、目的意識を持たせるために、参観日で保護者や地域の方々に調べたことを発表する機会を作る。
- ③自分の考えを出しやすくしたり、考えを確かなものにしたりするために、少人数グループで発表の準備や練習の活動する。
- ④表現の工夫の良さに気づかせるために、見本となる良い例に出会わせたり、専門家の意見を聞く。
- ⑤自分たちの表現の工夫を見直したり、友だちやグループ同士で見合ったりできるように、ビデオカメラを利用する。
- ⑥村上地区の歴史上の人物の生き様や出来事が今につながっていることを知る。

《こうなるだろう》

- ①自分が伝えたい人物や事象に対する思いや願いをしっかり持つことで、それを誰かに伝えたいという意欲が高まるだろう。
- ②保護者や地域の方々にわかりやすいことを意識して表現の工夫ができるだろう。
- ③保護者や地域の方々にわかりやすい発表にするために、自分の考えをグループの中



づいていくことが期待できる。また、活動の中で豊かに表現する姿を、教師や友だち、そして保護者や地域の方々に認められることを通して、表現に対する自信や意欲を高めることも期待できる。さらに、自分たちの地域の歴史について学習することを通して、自分たちの住む地域の良さを再確認し、この地域で育ったことにほこりを持つことも期待し、本単元を設定した。

### 3 単元の目標

○地域の歴史を調べ、伝える活動を通して、友だちと協力しながら活動を進めていく態度を育てるとともに、伝えたいことを分かりやすく表現する力を高めたり、自分の住む地域への愛着を深めたりする。

- (1) 児童一人ひとりが自分の課題を持ち、自らの課題解決を目指しながら進んで活動に取り組むことができる。
- (2) アイデアを出したり友だちと協力したりしながら、見通しをもって活動に取り組むことができる。
- (3) 相手を意識しながら、分かりやすい表現方法を考えたり、それを具体化していったりすることを通して、自分の表現力に自信を深めたりすることができる。
- (4) 自分の住む地域の良さを改めて感じ、ここで育ったことにほこりをもつことができる。

### 4 単元の展開 ※小単元「3. 調べたことを発表しよう」総合18時間 ※○数字は総合の時数

時期	時数	学習活動 「児童の意識の流れ」	指導・支援 【手だて】	必要な 視聴覚機器
五月	社会	<b>小単元1. 日本の歴史を学ぼう。</b> (1) 日本の歴史を学ぼう。 (2) 森將軍塚古墳を見学しよう。 ・「歴史っておもしろいな。」	・今後の学習に発展しそうな事柄については印象に残るように指導する。	電子黒板 パソコン デジカメ
六～九月	⑫	<b>小単元2. 地域の歴史を学習しよう。</b> (1) 地域に残る古いものを探そう。 (2) 地域に残る古いものを調べよう。 【上平】・御厨社古墳・御厨社・源忠寺 ・島遺跡・自在神社・自在山狼煙台 【上五明】・村上神社・西教寺 【網掛】・福泉寺・大國魂神社 ・十六夜観月殿 【小網】・豪族跡地・ 【月見】※歴史の浅い地区であり、歴史的建造物見つからず ・「ぼくたちの住む村上に、こんなにたくさんの歴史があるなんて思わなかった。」 (3) 村上氏（村上義光、義清）について学ぼう。 ・村上に残る古いものには、「村上氏」に関係のあるものが多いな。 ・学校の校歌には、村上義光と義清のことが歌われているよ。 ・どんなことをした人なのか調べてみよう。 ・「ぼくたちの住む地域に、日本の歴史に関わる人物がいたなんてすごい。」 ・「村上の歴史のことを、お家の人たちもあまり知らないんだな。発見したことをたくさんの人に伝えたいな。」	・児童の「この近くにも古墳があるよ。」の言葉を取り上げ、地域の歴史学習につなげていく。 ・家の人に聞いてくるよう促す。 ・見学にあたっては事前学習を行い、児童がめあてをもって調査活動を行えるようにする。また、地域の歴史に詳しい地域講師の方にも同行いただき、説明をしていただく。 【手立て①本物に触れる体験】 ・児童の発見を大いに認め、それにこだわりを持たせる。 ・地域に残る歴史遺産には「村上氏」に関係深いものが多いことを捉えさせる。 ・学校の校歌の2番を取り上げ、村上義光と村上義清について調べ学習を行うよう方向付ける。【手だて⑥今とのつながり】 ・家の方に聞いたり、インターネットや本で調べるよう促す。 ・調べたことを情報交換するとともに、地域講師の方にも義光、義清についてご説明いただく。その際、地域の歴史に対する思いも語っていただく。 【手立て①生き方にふれる体験】	電子黒板 パソコン デジカメ
九月～十一月	①	<b>小単元3. 調べたことを発表しよう。</b> (1) 村上に残る歴史をたくさんの方々に知ってもらうために、自分たちにできることを考えよう。 ・「村上の歴史について、地域の方々にもっと知ってもらえるように、調べたことを発表しよう。」 ・写真を見せた方が分かりやすいよ。 ・劇風にしたらどうかな。	・今後も地域の歴史を大切に守っていくために、自分たちにもできることを考えるよう促す。 ・授業参観の機会に、保護者や地域の方々に地域の歴史を紹介することを企画する。 【手立て②発表する場を設ける】	ビデオ 電子黒板
	②	(2) 発表内容と方法を考えよう。 ・今までの学習を振り返り、心に残ったこと、	・何を伝えたいのかをはっきりさせるよう助言する。	

		<p>伝えたいことをはっきりさせよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容ごとにグループをつくろう。</li> <li>・どのように発表するか考えよう。</li> </ul> <p><b>・どんな発表を目指したいか考えよう。</b></p> <p><b>【相手に分かりやすく伝えるために】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいこと<span style="border: 1px solid black;">の中心をはっきりさせる。</span></li> <li>・話の構成、資料や言葉を選ぶ。</li> <li>・声の大きさ、速さ、話し方。</li> <li>・体や顔の向き、相手の様子を見ながら話す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの伝えたいことをもとに、少人数グループを構成する。</li> </ul> <p><b>【手立て③少人数グループ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語「みんなで生きる町」で学習した、「分かりやすい発表」について振り返り、大切なことを全員で確認する。</li> </ul> <p><b>【手立て④よい見本】</b></p>	
	②	<p>(3) グループ後と発表の準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の構成や分担を考えよう。</li> <li>・言葉や使う資料を考えよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面ごと、伝えたいことが伝わる原稿を考えさせる。</li> </ul>	
	③	<p>(4) グループに分かれて発表練習をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすさを考えながら練習しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに活動場所を割り振り、活動に没頭できるようにする。</li> </ul> <p><b>【手立て③少人数グループ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所を回り、熱心に取り組んでいる姿を認めるとともに、後で全体にも広める。</li> </ul>	
	②	<p>(5) 自分たちの姿を見返そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの発表は、分かりやすい発表になっているか、ビデオを使って姿を見返してみよう。(中間発表会をしよう)</li> </ul> <p><b>・「分かりやすい発表にするためにもっと工夫が必要だな。」</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの発表を見合う場を設け、学びを共有するとともに、各自の今度のめあてをつかませる。</li> </ul> <p><b>【手立て⑤ビデオを使つての見返し】</b></p>	
	①	<p>(6) さらに分かりやすい発表になるように、自分たちの姿を見返しながら練習しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間発表の姿から、良さや今後の課題を考えよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオを使い、各自の発表の姿を振り返りながら練習するように助言する。</li> </ul> <p><b>【手立て⑤ビデオを使つての見返し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所を回り、各自のめあてが達成されている姿を認める。</li> <li>・全体にとってよい例となるグループがある場合は、その姿をビデオ等で紹介していく。</li> </ul>	
	①	<p><b>本時</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の姿を見返しながら、めあてをもって、練習に取り組もう。</li> </ul> <p><b>・「自分たちの発表がどんどん分かりやすいものになってきたね。」</b></p>	<p><b>【手だて④よい見本】</b></p>	
	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい発表になるために、さらに練習を重ねよう。</li> </ul>		
	③	<p>(7) もう一度、自分たちの姿を見返そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「以前に比べてよくなってきたところがたくさんあるね。」</li> <li>・「これなら分かりやすい発表になりそうだ。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良くなっている姿を認め、後で全体に紹介する。</li> </ul>	
十一月	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さあ、本番だ。伝えたいことがしっかり伝わるようにがんばろう。</li> <li>・伝えたいことはしっかり伝わったかな。見ていただいた方々の感想を読んでみよう。</li> </ul> <p><b>・「伝えたいことがしっかり伝わったようだ。自分の発表に自信が持てたぞ。」</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本番の姿もビデオに収め、後で振り返れるようにする。</li> </ul> <p><b>【手立て⑤ビデオを使つての見返し】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見ていただいた方に、児童の発表に対する感想を書いていただき、今後の励みとする。</li> </ul>	ビデオ 電子黒板
十一月 ～ 三学期	総合 ⑥	<p><b>小単元4. 学習したことをホームページで紹介しよう。</b></p> <p>(1) 地域の歴史を、もっと多くの人に知ってもらうために、ホームページに載せよう。</p> <p>(2) 自分が選んだ今後も残したい地域の歴史について、ホームページ作りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと多くの方々に地域の歴史を知っていただくために、学校ホームページに学習した内容を載せていく。</li> </ul>	パソコン
三期	総合 ②	<p><b>小単元5. 学習のまとめをしよう。</b></p> <p>(1) 学習を振り返り、感想を書こう。</p> <p>(2) 感想を発表し合い、地域の歴史を今後も大切にするために自分にできることをまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を振り返り、学んだことや考えたことを中心に感想を書く。</li> <li>・感想を発表し合い、これからの地域の歴史に対する自分のあり方について、考えたことを書く。</li> </ul>	



# 5 本時案

6年東組 男子

17(1)名 女子13名 計30(1)名 担任 市川忠志

## (1) 主眼

自分たちの調べてきた地域の歴史を保護者や地域の方々に紹介したいという願いをもった子どもたちが、伝えたいことを分かりやすく伝えるために発表の練習をする場面で、友だち同士で発表の姿を見合ったり、ビデオで撮影した自分たちの姿を見返したりすることを通して、友だちと協力しながら、進んで表現を工夫することができる。

## (2) 本時の位置 小単元3 全18時間扱い中第13時

前時…自分たちの発表の姿を見返し、良さや課題について考え合った。

次時…グループごとさらに発表の練習を進める。

## (3) 指導上の留意点

- ・練習した姿をその場で見返すことができるよう、撮影用のビデオカメラを用意しておく。
- ・少人数で練習に打ち込めるように、教室以外にも集会室、教材室、学習室などグループごと会場を用意する。
- ・活動時間を十分確保できるように、授業時間を60分とする。

## (4) 本時の展開

課 題	学習活動	予想される児童の反応	・指導助言 時間【手立】評価	時
1. 学習課題 友だちの発言から、本時の学習内容と学習課題を確認する。	<p>「伝えたいことを分かりやすく発表する練習をしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞く人、聞こえるよう大きな声で話す。</li> <li>・下向きな目で、相手の方を見て話した。</li> <li>・はっきりと分かりやすい言葉を使って話した。</li> <li>・もっと大きく動くようにした。</li> </ul>	<p>「共通の学習課題 相手を困らせない話し方 体の向き、動きを工夫しよう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1つのグループの、中間発表会で撮影した発表の姿を見返しながら、そのグループの今日のめあてを発表させる。(この時点で児童の共通課題を身振り、他のグループの良い例となったりするグループを選別する)【手立て①良い例】</li> <li>・「この時間、どんなことをがんばろうと思っていますか?」</li> <li>・他のグループのめあてもくつか取り上げ、共通課題として示す。</li> </ul>	5
2. グループごと、この時間に入る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各会場で、グループごとリーダーを中心にこの時間一人ひとりのめあてを確認するだろう。</li> <li>・ぼくは大きな声で話してみたいから聞く。</li> <li>○グループごと練習準備をするだろう。</li> <li>・このくらい声の大きさをいかなあ。</li> <li>・ちゃんと聞く人の方を向いていかなあ。</li> <li>○ビデオで自分たちの姿を見返してみよう。</li> <li>・自分たちの姿を見ると、前より顔が広がってていいね。</li> <li>・声少し小さかな。もっと大きくしてみよう。</li> <li>・みんな堂々としてきたね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この時間、準備すること、一人ひとりのめあてを確認するように声をかける。</li> <li>・練習撮影の中では、個人のめあてを明確にしたり、友だち同士で見合ったりすることを意識させるような声かけをしていく。</li> <li>・グループで協力しながら進んでいるグループがめあての姿を認めよう。</li> <li>・見る人、聞く人の立場で見てアドバイスするよう伝える。</li> <li>・個人のめあてに対して良くなった姿を見つけたらその場で褒めよう。</li> <li>・ビデオで撮影する目的をはっきりさせるような声かけをする。</li> </ul>	30	
<p>班・課題・活動場所 ☆グループの願、○各グループのめあて ●予想される困難点 ◎手立て</p>				
1グループ【3児童会室】 ナレーション 劇団 3人	2グループ【3階学習室】 村上義光 劇団 9人	3グループ【3階集会室】 村上義散 武田信玄 劇団 8人	4グループ【3階体育館】 村上義青・葛巻成徳 劇団 11人	
☆大きな声でしゃべり進んだ。他、自分たちが伝える部分もしっかり覚えた。	☆南朝陣時、親玉の身振りとなって、なくなった義徳のことを伝えた。	☆義青と戦った信玄とは身振りも強、武将の姿を伝えた。	☆義青と信玄の戦い、最後と義青のその後を伝えた。	
○大きな声でしゃべり話したり、つかえず話したりした。	○さくら大きな声で話した。動きも大きかった。	○顔を上げて、大きな声で話した。	○言葉を覚えているよう大きな声で話した。	
●大きな声でしゃべり話したことを意識し、実際に練習してできなかったかもしれない。	●練習するうちに、個人のめあてへの意識が薄れてしまうかもしれない。	●分かりやすい表現ができていないか、判断がつかず準備めもしていない。	●言葉を覚えていながらも言おうと早口になってしまったりもしていない。	

	ない。			
	◎ビデオを使って、自分たちの姿を見返しをさせ、課題への意識を高める。	◎一人ひとりの課題を確認し、場面ごと発表の姿を見返していくようアドバイスをする。	◎めあてを確認し、ビデオの姿を見ながら教師のアドバイスをする。	◎ビデオを使って自分たちの姿を見返させ、課題意識をさせる。
			評価 ・友だちと協力しながら、進んで表現を工夫することができたか。	
3. 学習の成果を見合い、良さや次の課題を考え合う。	◎全員が学習室で集まり、導入で発表したグループの1時間の成果をビデオで見て、良かった点や今後の課題を考え合う。		・最初の発表してもらったグループが、この時間どう変わったかみんなで見よう。 ・良かった点や今後もっとこうしたら良くなるという点を全員で考え合う。 ・導入で発表したグループも、自分たちの練習の成果や今後の課題を考えるように声をかける。 ・良かった点は全員で認め、全体で定める。	7
ま 4. 次の活動とを確認し、学習カードの感想を記入する。	◎次の活動内容と個人のめあてを考える。 ・次の練習でもっと大きな声が出せるようにがんばろう。 ・みんなだんだん顔が紅くなっていき、次も恥づかしがらなくなろう。 ◎学習カードで感想記入 ・大きな声でゆっくり話そうにしてたら、とても分かりやすくなったよ。 ・動きを工夫したら友だちによくなったと言ってもらえてうれしかった。もっと工夫したい。		・グループごと、次の活動内容と個人のめあてを考えさせる。  ・感想を記入させる。 ・時間もあれば、数名の児童の感想を発表してもらおう。  「これでさらに分かりやすくなり発表がよくなったよ」	3

(5) 実証の観点

- ① グループで見合ったり、ビデオを使って自分の姿を見返したりしたことは、児童が自分の課題をつかみ、進んで表現を工夫する姿につながったか
- ② 以前の姿と本時の練習の姿を見比べ良さを考え合ったことは、児童が自分の表現に自信を深めることにつながったか。

6 教材研究

(1) 本時に関わる視聴覚教材・機器とその活用

① ビデオカメラ

- ・友だち同士で発表を見合うだけでは自分の姿を見ることができないが、ビデオカメラを使うことによって自分の発表の姿を自分で見ることができる。これにより、自分の課題や良さを確認することができる。
- ・以前の姿と現在の姿を映像で見比べ、自分たちの良くなったところを友達に認めてもらい、自信を深めることができる。
- ・課題となるところを何回も見返すことができる。
- ・音声と映像を同時に見返すことができ、声の大きさや動作の課題や良くなったところを確認することができる。

② 大画面テレビ

- ・プロジェクターと違って室内を暗くする必要が無く、ビデオカメラの映像を鮮明な画像で見ることができる。
- ・良いグループの作品を全体に紹介する時、大画面で鮮明な画像で見合うことができる。

(2) 素材の教材化

① 村上の歴史的な人物 (村上義光、村上義清)

- ・村上義光、村上義清は、村上小学校の校歌に歌われており、児童の身近な存在として興味関心を持って調査活動に入りやすい。
  - ・村上義光、村上義清は、歴史上で有名な存在であり、それを調べることにより、児童が地域への誇りを持てる人物である。
- ②村上の歴史的な遺跡（島遺跡、村上神社、大国魂社、十六夜観月堂、福泉寺、葛尾城、西教寺、御厨社、自在神社、源忠寺、御厨社古墳など）
- ・学校の近くには、歴史的遺跡が多く残されているおり、直接現地に行き見学を行うことができる。
  - ・学区内には、村上氏を始め地域の歴史に詳しい方も多数おり、直接お話しをお聞きすることができる。

## VI 資料

### 村上の歴史

#### ◆◆◆村上義光くむらかみ よしてる>◆◆◆

鎌倉時代の末、幕府を倒そうとした後醍醐天皇の建武のクーデターに先立つ元弘の乱（1333）に始まる南北朝の内乱に、義光は南朝の立場に立って活躍しました。『太平記』という本に書かれています。義光は後醍醐天皇の皇子護良親王の身代わりとなって討ち死にしました。

このことをしのいで江戸時代の国学者藤田東湖は「死出の山 こゆるも嬉し 天照らす 神のみすえの皇子となのりて」と詠みました。村上小学校の北側に東郷平八郎の書でこの歌碑が建っています。また県歌「信濃の国」を作詞した浅井湧による村上小学校の校歌には、義光が「芳野の山の花と散り」と歌われています。

#### ◆◆◆村上義清くむらかみ よしきよ>◆◆◆

戦国時代は、応仁の乱（1467）に始まりますが、このころ村上氏は村上郷から対岸の坂城郷に移りました。満泉寺のあるところが、村上氏居館跡として県の史跡に指定されています。

義清は文亀元年（1501）ここに生まれました。永正十五年（1518）十八歳にして葛尾城主となり、やがて東北信一の戦国領主となりました。

武田信玄の侵略に対して天文十七年（1548）上田原の戦い、天文十九年（1550）砥石城の戦いに勝利をおさめました。信玄が戦に負けたのは、義清と戦ったこの二回だけであり、名将としての義清の名を歴史に残すことになりました。

しかし、信玄の配下となった真田幸隆などの謀略により天文二十二年（1553）葛尾城は戦わずして陥落、義清は上杉謙信に援を求めて越後へ逃れました。

ここに謙信対信玄の川中島の合戦が始まりました。葛尾城落城（1553）から永禄七年（1564）の十二年間に五回の戦いが行われました。義清は、謙信と信玄が直接対決し最大の激戦だった、第四回の戦いまで出陣しました。

村上小学校校歌に「越路の雪に埋みても、しるきその名は世に絶えず」とあるように、義清は天正元年（1573）越後根知城において七十三歳で亡くなりました。

義清は真っ正直な人柄、人情味が豊かで信仰心が厚かったと伝えられています。「敗軍の将、兵を語らず」を、身をもって示した名将でした。このような信濃村上氏を輩出した発祥の地は、わが上平の地です。この歴史をいつまでも大切にしたいものです。

参考文献 上平区広報「歴史探訪」大橋幸文 著

## 学校教育目標

「豊かな人間性や社会性をもち、たくましく生きる子どもの育成」

学校長の願い「明るく・安心・安全な学校」「児童の表現力を高める」「授業の改革及び基礎・基本の定着」  
「地域と連携した開かれた学校」「同僚性のある学校」「学校評価を生かす学校」

げんき・こんき・やるき・なかよし

### 村小の教育活動

各教科・総合的な学習の時間・道徳・特別活動

「他を思いやる子」

「進んで学ぶ子」

「明るくあいさつする子」

「元気に運動する子」

地域とともに歩む「開かれた学校」

#### 特色ある学校づくり

《 地域の人・もの・自然・できごとから学ぶ地域学習 》

- 豊かな自然環境の中で体験することから学ぶ環境教育  
・こどもの森での遊び・森林教室の実施・環境に関する調査活動  
・村小ホタル復活大作戦
- 村小プランに基づく各学年の活動  
○交流活動から学ぶ「相手の立場に立つ」「自分の考えを表現する」大切さ  
・月影寮・高齢者の方々・保育園児 等との継続した交流  
○栽培活動 ・ばらづくり・米づくり・花づくり・野菜づくり
- ユーザー視点に立った「ものづくり」教育
- 豊かな知識の蓄積と情報活用力の育成  
・パソコンの効果的な活用、・図書の活用・地域の方々への取材活動
- 健やかな心身を育む食育の充実 ・食育に関わる年間指導計画の作成と実践
- 豊かな国際性を身につける学習活動 ・英語活動の推進 (全学年)

子どもたちに「力」をつける教科の学習

#### 授業改善の工夫

- 重点教科の研究や公開授業・職員研修の充実から高まる教師の教育力・授業力の向上 (専門性)
- 職員一人一人が自己課題のために進める研修と互いに磨き合う同僚性の高まり

#### 「わかる授業」の創造

《基礎的・基本的な力の定着》

- ・少人数による学習の充実
- ・ドリルの効果的位置づけ
- ・諸検査による児童の課題の明確化と個に寄せた指導・支援の具体化

#### 「楽しい授業」

《主体的な探究力の育成》

- ・学習問題の明確化・魅力ある教材の選択・追究段階での手だての具体化  
学習形態の工夫
- ・地域素材を生かした体験的な学習の位置づけ
- ・音楽活動や話し合い活動を通して伸ばす豊かな表現力の育成
- ・健康と安全に配慮しながら様々な運動の楽しさを体験し、鍛える心身

#### 心の教育の充実

- 豊かな心情をはぐくむ道徳教育の推進・読書活動の充実
- 教育活動すべての基盤となる人権教育の充実
- 児童一人ひとりを大切にしたい指導の蓄積により、児童それぞれが居場所のある学級づくり

#### 特別支援教育

- 児童一人ひとりの教育的ニーズを大切に、力を伸ばすための個別指導計画に基づいた支援の充実
- 外部機関との機能的な連携

#### 特別活動

- 豊かな心と健やかな体をはぐくむ  
・読書活動の充実 朝の読書  
・集会の活用 音楽集会・体育集会
- 心を磨くあいさつと清掃の推進
- 心をつなぐ児童会活動  
「集会活動」の工夫  
「村小チャンピオン旬間」の実施

### 地域に根ざす教育活動

- 保護者・地域との強い連携  
・学校支援事業の活動  
・村上小児童の安全を守るボランティア
- 学校開放(参観・参加・参画)  
・各教科の学習ボランティアの参加  
・村上小バラードの会
- 地域の教育力の活用  
・地域講師によるクラブ活動の指導  
・村上会

#### 平成22年度の重点

～個に応じたきめ細かな指導で、一人ひとりの子どもに生きる力をつける～

- ◎「豊かな心」 ○学校や家庭で、自ら進んで読書し、豊かな心情を育む基盤を醸成する。  
・朝の読書 ・読み聞かせ ・親子読書 ・読書旬間 ・本の紹介
- 家庭・地域と連携して、あいさつを中心とする基本的な生活習慣を身につける。  
・学級・学年での取組 ・挨拶運動 ・家庭・地域との連携
- ◎「確かな学力」 ○問題解決学習を基本に、子どもが主体的に取り組む授業を構築・実践し、確かな学力・表現力をつける。  
・学習問題の板書 ・追究における練り合い・見返し、・ドリル ・指導体制 ・家庭との連携
- ◎「健やかな体」 ○運動や遊びに打ち込むことを通して、最後まで粘り強く取り組むことができる健やかな心身を育む。  
・体力テスト ・あそびの紹介 ・縄跳び、マラソン ・食育

#### PDCAサイクルによる継続的な評価と明らかになった課題に対する改善策の実施

計画 (Plan) → 実践 (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action)

- グランドデザインに基づき、各学年・学級・各教科、各種教育の目標・本年度の重点的な取組みの計画と実践
- 具体的な評価項目についての客観的かつ多面からの評価の実施 (年間に複数回実施)
- 評価結果の分析と改善についての具体的な方法の検討と改善策の実施
- 平成22年度 年間の教育活動に関わる評価のまとめと次年度への課題の明確化

一 平成22年度 総合的な学習の時間（村上プラン）全体計画

子ども達の姿  
 ○決められたことや活動の目的や内容がはっきりしていることには、熱心に取り組むことができる。  
 ○自らの力で課題を見つけることが苦手である。  
 ○工夫して活動を豊かにしていくことができない。  
 ○自分の考えや思いを表現することが苦手。

学校教育目標  
 「豊かな人間性や社会性を持ち、たくましく生きる子どもの育成」  
 「進んで学ぶ子」  
 「他を思いやる子」  
 「元気に運動する子」  
 「明るくあいさつする子」

学校を取り巻く環境  
 ○村上氏を中心とした歴史に支えられた地域。  
 ○豊かな自然（蛭など）と、自然を生かした稲作・バラ栽培などの盛んな地域。  
 ○クラブ講師など、学校教育に積極的に関わっていかうとする地域の人たち。

総合的な学習の時間の目標  
 （新学習指導要領より）  
 ①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、②自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、③学びかたやものの考え方を身につけ、④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、⑤自己の生き方を考えることができるようにする。

村上小学校の「総合的な学習の時間」のねらい  
 1. 人や物や事象と関わる中で、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成し、追究していくことができる。  
 2. 人との交流や、動物・植物の飼育・栽培などの体験、事象を調査・追究することを通して学びかたやものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、その対象の生き方や生死、生長に触れることを通して、自己の生き方を考えることができる。  
 3. 調査、追究、体験したことを自分の言葉や行動でよりよく表現できる能力を育てる。

各学年の題材例  
 3 学年  
 ・植物の栽培  
 ・村上の自慢調べ  
 4 学年  
 ・月影寮との交流  
 ・蛭の復活  
 ・緑を増やす活動  
 5 学年  
 ・稲作り  
 ・村上保育園との交流  
 ・村上のバラの調査、栽培  
 ・中国実験小学校との交流  
 6 学年  
 ・村上の歴史調べ  
 ・菊の栽培  
 ・村上のバラの栽培、紹介、発信  
 ・中国実験小学校との交流

育てようとする資質や能力及び態度				内容			
学年	学習方法に関する事	自分自身に関する事	他者や社会との関わりに関する事	課題	学習対象	学習事項（中学年）	学習事項（高学年）
中学年	○対象に出会い学級やグループでの話し合いを通して自分の課題を見つけることができる ○各教科等で身につけた知識や技能を使って追究する。	○こだわりをもってひと・もの・事象に協同的に関わることができる。 ○いと・もの・事象に関わる中で、自分の行為を振り返ることができる	○対象の願いを感じとり、その願いに応じた追究をすることができる。	総合的・横断的な	身近な自然環境のすばらしさ	身近な自然に親しみ、自然の大切さに気づく。	身近な自然に関わり、環境問題へ視野を広げる。
				児童の興味・関心・態度	身近な高齢者や年少者とその暮らしを支援する人々 身近な地域や過去や将来と関わりのある人々	身近な高齢者の存在に気づき、温かい気持ちで接する。 身近な人々の生活を知り、自分たちの生活や地域を支えていることが分かる。	身近な年少者との関わり、相手の立場に立った言動ができる。 身近な人々とともに活動することを通して、人と関わる意義を体験的に考える。
高学年	○対象に関わり、グループや個人で自分の課題を見つけることができる	○自分自身を見返しながら、見通しを持って主体的・協同的に対象に関わることができる。 ○対象との関わりの中で相手の立場に立って考えたり、自分の行為を決定したりできる。	○対象との関わりの中で、相手の願いを受け止め、相手意識に立った追究ができる。	地域や学校の特色に応じた	地域の伝統や文化、特産品やそれを守る人々。	地域を支えている人や物に触れ、人々の願いや思いを知る。	地域の一員として、人や物への関わりを深め、郷土を愛する心を持つ。

<b>学習活動</b> A ふるさと村上の いとなみに学ぶ学習 B 飼育・栽培活動 C 学級独自の学習 D 英語活動（別領域）	<b>指導方法</b> ○体験を重視し、五感を使って対象と関わるようにする。 ○体験を通して考える場を設ける。 ○年に1回は全校へ学習活動を発信する機会を設ける。	<b>学習の評価</b> ○ポートフォリオを活用した評価を行う。 ○活動の様子。発言の記録。まとめたもの。学習カード。自己評価カード。映像。音声。相互評価	<b>指導体制</b> ○職員研修を実施し、教師が地域を歩いて地域を知る。 ○地域の方を講師としてお願いする。 ○保護者の方にも子どもと一緒に活動してもらう。
---	--	---	--

<b>各教科等との関連</b> 国語～作文、発表（依頼文、お礼文、まとめ、発表原稿作り） 社会～農業、工業、歴史、地理 算数～長さ、面積、時間 理科～温度、観察、栽培、飼育 図工～絵画、工作 音楽～歌作り	<b>中学校との連携</b> 中学校で南条小学校、坂城小学校、村上小学校が一緒になる中で、一番小規模ながら村上地区に誇りを持って進学することができる。	<b>地域との連携</b> ○地域講師の活用 バラ、米作り、菊作り、地域の歴史、工業、農業、蛭、坂城町役場職員 ○保育園、月影寮との交流 ○町との協力 中国との交流
--	--	---

		3学年(60時間)	4学年(60時間)	5学年(70時間)	6学年(70時間)
A ふるさと村上のいとなみに学ぶ学習	ねらい	ふるさと「村上」について、自分が興味を持った事柄について、体験・調査などの活動を通して、村上のよさを発見することができる。	ふるさと「村上」に暮らすさまざまな人々や豊かな自然と積極的に関わり交流することを通して、地域の一員として生活していこうとすることや豊かな自然を見直し、守っていこうという意識を育てることができる。	ふるさと「村上」の自然に目を向け、米づくりの活動をしたりすることを通して、ふるさとの自然を守っていこうとすることができる。来入児と接することを通して、自分の生き方を問う機会とする	ふるさと「村上」の先人のいとなみに目を向け、自分が興味関心をもった事柄について、調査・追究活動を通して、ふるさと「村上」を築き上げてきた先人におもいを寄せることができる。
	村上の自然や文化・人	自在山・びんぐし山、びんぐし公園、びんぐし湯さん館・スーパーや商店(JAびんぐし店・福多屋・コンビニエンスストア…),工場(寿製菓・竹内製作所・デイリーフーズ…),農業(水田・バラハウス・ブドウ・リンゴ・コイの養殖…),神社・寺,養蚕	月影寮と月影寮に入寮している方々 福沢川、ほたる川 町有林	米づくりと米生産者 村上保育園との交流 (6年生になるときの1年生との交流)	古墳(御厨社古墳・出浦沢古墳群…),神社(自在神社・村上神社…),寺(福泉寺・西教寺),石碑(姫の宮・藤田東湖歌碑…),祭(御柱・神楽…)村上氏(義光・義清…)歴史に詳しい大橋先生
	学習活動例	村上のじまんを見つけよう ・村上の中を歩いて、村上のじまんを見つけよう ・見つけたものについてくわしく調べて発表しよう	村上にくらす人々と交流しよう ・月影寮の人たちと交流しよう ・村上に暮らす、すべての人たちが住みやすい場所にするためには、どうすればよいか考えよう。 ・ホテルを復活させるための水質や幼虫の住みやすい環境を作っていく	米を育てよう ・自分たちの力で米を育てよう ・米について調べよう ・収穫祭をしよう	村上歴史探検 ・村上の古いもの探しをしよう ・校歌の2番の意味を考えよう ・村上氏について調べよう ・祭について調べよう ・民話を調べよう
B 飼育栽培活動	ねらい	生き物の飼育・栽培を通して、生命のすばらしさ大切さに気づき、生命を尊重することができる。		栽培を通して、生命誕生の神秘を知り、すべての生命を慈しみ尊重することができる。	
	学習活動	花作り(学習Aと重なる) サツマイモ作り	ホテルの復活 植林活動	米づくり(学習Aと重なる)	菊づくり
C 学級独自の学	ねらい	各学級でねらいと学習計画を設定して取り組む		キャンプ学習	修学旅行の学習
教科等との関連		国語・社会・理科・図工・道徳	国語・社会・理科・図工・道徳	国語・社会・理科・家庭・道徳	国語・社会・図工・音楽・道徳
英語活動	ねらい	英語に興味・関心を持ち、歌や言葉に親しむことができる。		英語による簡単な日常会話に親しむことができる。	
	学習活動	坂城中学校のAETと連絡を取り合いながら行う。 平林さんの授業(25時間～学校裁量15時間、総合10時間)		コーディネーター・坂城中学校のAET・担任による授業。 (35時間)	